

# 1985

---

## 全日本医学生アジア連絡協議会 活動報告書

第6回アジア医学生国際会議  
フィールドスタディ

6th Asian Medical  
Students' Conference  
&  
Field Works

全日本医学生アジア連絡協議会

## 編集後記

私は都合がつかず、国際会議もフィールド・スタディにも参加できませんでしたが、少しでも皆と同じ気分になろうと直前合宿に顔を出しまして、カルチャーナイトで日本が披露する花笠音頭を修得しました。そこで一気に皆とアジアへ行く気分になり、また参加した人から楽しい話を聞き、なぜか報告書作成に携わることになって、みんなの原稿に目を通した今は、場面を空想し、友だちの写真の助けも借りて自身ほとんど行った気持ちになりきってしまいました。でもなぜ私のパスポートにフィリピンの、はたまたタイの、インド・台湾のビザの④がないのかしら……。

私は生意気にも意見します。同志よ、悩む前に、理屈をこねる前に、先入観を育てる前に、アジアのそこに住まう同胞たちと、ともかく接しましょう、と。その結果、大いに悩み、自己の非力を確かめ、英語力の大切さを痛感すればいい。私たちは医学生である前にアジア人であり、単なる1個の生物体なのよ！

(東京女子医大5年 大坂麻里枝)

感動のうちに夏は終わり、テストのどさくさにまぎれて秋も過ぎ、ふと気が付けば今はもう冬。皆さんお元気ですか？

思えばこの夏、実に多くの人々と出会いました。信じられないほど素晴らしい人がこれでもか、これでもかと目の前に現われ、田舎の小学生がマチから赴任してきた先生を茫として見つめるような感動でした。こんな素敵な人々が世界中に散らばっているなんて、世の中ってなんてよい所だろう。生きてるってなんて嬉しいんだろうと思いました。

が一方で自分の貧弱さがはがゆく、恥しくもありました。彼らの素晴らしさに近づくにはまだまだですが、泥んこのお芋を樽に入れ長い棒でゴーロゴーロとかき混ぜるといつのまにかまっ白に洗われてしまうように、一つ一つの小さな大切な出会いの中で、たとえその時は気付かないほど少しずつでも変化し磨かれていけるような人になれば、というのが私の願いです。

最後に原稿を寄せて下さった皆さん、どうもありがとう。廣田さん、出き上がりが遅れてごめんなさい。市川さん、ご結婚おめでとうございます。そして、麻里枝さんも……。

(東京女子医大5年 今野真紀)

「編集後記を書く資格が自分にあるのか」これが現在の正直な感想です。今回は多くの点で関係者の皆さんにお詫びしなければなりません。

まず第一に出版の予定が大幅に遅れたこと。当初は年内出版の予定でしたが、私たちの原稿収集および編集の手際の悪さのため出版社へ手渡すまでに大幅に時間をとってしまいました。この点に関しまして原稿を送って下さった方々およびメヂカルフレンド社さんに心からお詫び申し上げます。

二番目に皆さんに書いていただいた原稿の一部を割愛しなければならなかったこと。写真をはじめ多くの extra の原稿を送って下さった方々の熱意とは対照的に、私たちの能力不足のた